

越前國內神名帳	神階考
石浦神社來歴考	新訂石浦三輪神社縁起
加賀式内社並國史現	加賀一州式内社校正愚論
御靈祭の辨	諸神社考
加賀國鄉村區別帳	神社神官規則
喜多師考	尾山神社來歴考
佐那武社古文類聚	寺院僧尼規則
寶園寺下祠堂記	金澤古蹟志
金澤起原	加賀志
能登志	越中志
加賀國諸事雜記	三州歌林名所考
三州郷庄邑名記	國郷來因
國郡沿革考	加藩貨幣錄
前田家判印鑑	藩公判物寫
柿園拾葉抄	皇和通曆
雅俗拾穗集	柿園雜抄
日本靈異記頭注	萬葉集人名考
萬葉華實餘情	越中萬葉遺事
越中萬葉遺事附錄	柿園拾芥集
北海邊要考	宗良親王記事
尚齒會記	大夫坊覺明考
加藩國老叙爵考	藩祖遺誠鈔
北越類聚史略	漸得雜記附錄
續々漸得雜記	扶桑長壽錄
金澤長壽錄	國事雜抄
北國地震記	諸王傳
維新錄	明治職員令並藩治職制
金澤藩名家由緒記	加越能氏族傳
加越能書籍一覽	韃靼餘考々證目錄
御三代御戰功の記	同御勳座之記
同御官位補任之記	前田家封國證書類集錄
利常卿夜話	陽廣公遺事
微妙公上洛考	幸若舞曲考

松風要抄 茨木譜備考  
 澄源君年譜 寛量君年譜  
 寛性君年譜 藻鹽艸  
 湯淺翁手簡 湯淺三輪兩家傳書  
 モリタモリマサ 森田盛昌 通稱は小兵衛。初名平之丞自參、後西岸と稱した。寛文七年出生。天和三年十七歳にて藩臣茨木氏の近習御用となり、貞享四年九月父歿したるを以てその扶持米を受け、享保九年に至つて祿四十石に進められたが、十六年十一月致仕して三人扶持を給はり、翌十七年十一月廿八日歿した。享年六十六。人となり恭謙質朴、最も古風を好み、その武術は劍法の外鎗術・馬術にも通じ、餘技として簾雨齋の名を以て畫を描き、連歌をも弄した。盛昌が群書を涉獵して際寫拔萃したものに、自他群書五卷・漸得雜記廿六卷があり、自著に咄隨筆三卷の外、能登紀行一卷・寶草子一卷・飛州高山在番雜記一帙・中川系圖一卷がある。この盛昌は平次六代の祖に當る。

モリタヨシサト 森田良郷 通稱大作。初諱常通、翠園と號し、實は茨木氏の臣山川長右衛門惟明の五男であつた。寛政二年十一月十二日生まれ、幼名を小次郎といふた。享和元年十二歳の時主家茨木氏の御手廻役となり、一人扶持・銀二枚を受け、文化元年森田修陳に子養せられ、翌年元服して武右衛門と改め、三年五人扶持で給人組格用人並となり、十四年一人扶持を増して近習頭となり、文政十年には用人本役並下行方本役に任じ、足輕支配を兼ね、天保元年父の後を襲ぎ祿六十石を受け、十一年家老役となり、安政四年五月

十五日歿した。享年六十八。人となり篤實、文武諸藝を勵み、俳諧には互扇の號を用ひた。著書に續咄隨筆三卷・泰雲公御年譜八卷・北寇談三卷・越路土産一卷・翠園木葉集二卷・續漸得雜記三十八卷がある。良郷は平次の父である。

モリチヨウセツ 森兆雪 通稱健之助。諱は辰元又は現。字は子華。兆雪又は鈞雪と號した。西園の兄で、畫を岸駒に學んだ。藩末の人。

モリツグ 盛次 加州住の一代鍛冶。

モリト 森戸 石川郡横江郷に屬する部落。

モリナガシキ 盛長私記 盛長私記五十一卷は、頼朝と時を同じくする安達藤九郎盛長の著であると傳へられ、その義經北國落の記事は、屢世人の引證に供せられるのみならず、越登賀三州志の之によつて本傳を立てた後、この地方に在つては、盛長私記を知るも知らぬも、皆之を正確なる史籍と信ずるに至つた。しかも本書の偽作なることは、夙く安齋隨筆に辨せられ、扶桑見聞私記と共に、江戸時代に於ける加藤仙庵の悪戯であるとせられる。仙庵は初め水野監物に仕へて須磨不替といふたが、後流浪して江戸の青山に住んでゐた。その著扶桑見聞私記は、吾妻鏡に擬した文體を用ひたが、後に假字交りとし、外題は初め廣元日記といふたのを、毛利侯の禮を受けて改めたのである。享保中成島道筑之に考證を加へてその偽書なることを明らかにした。而して盛長私記も亦廣元日記と性質を同じくするものであるといふ。盛長私記に於ける義經北國落の記事は、『豫州北國落、付通』安宅之關所於、並義顯道、井上之難於一事の

條に記されてゐる。その中、勸進帳を讀んだ僧を俊章であるとするは、謠曲安宅と趣を異にし、義經が關を越えた後、富樫介之を追うて芳醇を貽り、辨慶の『鳴るは瀧の水』の曲を奏したとする一論は、謠曲にのみあつて、盛長私記には省いて居る。

モリヘイソウ 森平藏 元祿十五年御居間方坊主となり、享保元年御歩並、二年新番並に進み、八年新知百三十石を得、九年五十石を加へて組外に列し、十四年六月南御土藏奉行に任じ、延享四年六十六歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

モリベモリトモ 守部盛朝 白山本宮の神主職。その補任の年月を明らかにせぬ。白山宮莊嚴講中記録に、『元亨二年十一月六日午日祭禮之時、當社神主盛朝盛朝、爲上道氏助一被殺害云々、職相論ノ意趣也。假拜殿ニテ令ニ及傷、於彼岸所令殺害云々』とある。盛朝は守部である。

モリミツ 盛光 加賀の刀工。加州住盛光と切る。應安頃。

モリモト 森下 河北郡に南森下・北森下の二邑があり、前者は井上庄に、後者は五ヶ庄に屬する。源平盛衰記壽永二年に、『加賀國井家・津播多・荒井・閑野・竹橋・大庭・島田・森本まで連たり。』三宮古記近年水引神人沙汰進分事に、『森下村紺三端。』など、見える。

モリモト 森本 羽咋郡押水大海庄に屬する部落。

モリモトガハ 森下川 河北郡白兀山の西北に發して田、島に流れるものを田、島川といひ、その北に發して荒山に流れるものを豊吉川といふ。この二水二侯に相會して二侯川と